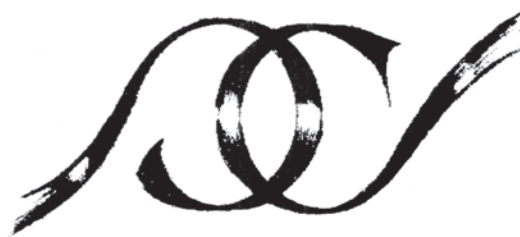


NOW

My Ami International News

Ami International Exchange Association



第 63 号

2019.3.30

阿見町国際交流協会 広報誌

世界の文化紹介 フランス編を開催

事務局

〒300-0392 茨城県稲敷郡阿見町中央1丁目1-1

TEL 029-888-1111 (内線292) (役場内)

FAX 029-887-9560

ホームページ <http://www.town.ami.lg.jp/aiea/>

電子メール aiea-ami@atlas.plala.or.jp

編集・発行 阿見町国際交流協会広報委員会



平成31年2月9日(土)、阿見町中央公民館3階集会室にて、「世界の文化を知ろう」を開催いたしました。雪の降る寒い日だったにもかかわらず、合計75名の方々にご参加いただき、大変な盛会となりました。

今年度の国は「フランス」で、つくば市でフランス語会話教室を運営されているマリニャック・ブノワ先生にお話をいただきました。ブノワ先生からは、フランスの地理や休日、食べ物などについて、素敵なフランスの写真を用いながら、全てフランス語でご紹介いただきました。そして、ブノワ先生からフランス語を学ばれている

鎌田マヤさん、伊藤しょうこさん、長坂やすひこさんに、通訳をしていただきました。また、3人にはテーブルマナーやナポレオン皇帝について、日本語で詳しくご説明いただきました。

休憩時には、ブノワ先生にご準備いただいたフランスのチョコレートとホットチョコレートを参加全員で堪能しました。最後の質疑応答の時間には、活発な意見交換が行われ、ブノワ先生達も阿見町民の熱意に感銘を受けておられました。

ホームステイ委員会 瀬尾 匡輝

世界の文化紹介フランス編に参加して

亀村 正子

“Bon jour”の一言からブノア マリニャックさんの講演は始まり、フランス語のあの優雅な響きの中で、しばしの間フランスにいる気分になりました。

まず、フランス全土の都市、海岸、山脈、国旗についての話、各地の特色ある食べ物の紹介などがありました。もしかしたらフランス人より詳しいのでは？と思わせるような日本人アシスタントさんのナポレオンの話も興味深いものでした。また、寸劇でフランス人家庭に招かれた時のマナーの紹介があり、スープのスプーンの使い方や、ワインは必ず男性が注ぐということ、ホストが食べ始めるまで食べてはいけないなど、初めて聞くことばかりでした。休憩時間のホットチョコレートは絶品でした。まるでパリのカフェでくつろいでいるようでした。また、チョコレートの包装紙にフランスの格言が書かれていたり、爆竹のような音の出る紙が入っていたり、とても面白かったです。マリニャック家のイエスキリスト生誕の様子を現した人形も、日本のクリスマスとは違った雰囲気を醸し出しており、遠い昔クリスマスにパリを訪れた時の街頭を思い出しました。

この日は雪の降る生憎のお天気でしたが、会場は大勢の聴衆で埋まり、ブノアさんと3人のアシスタントの方の素晴らしいコンビネーションで、アツと言う間の2時間半でした。またフランスを訪れたいくなりました。ブノアさん、アシスタントの皆さん“Merci beaucoup”。



会長にご挨拶を頂きました

海外の料理で交流しよう

都市・文化交流委員会 櫻井 栄子

12/8(土) 9:00~12:00 阿見中央公民館に於いて英国出身のアンディさんと参加者31名で、イギリスの家庭料理3品を作りました。まずスナックのソーセージロール、豚ミンチにいろいろなハーブを混ぜパイシートで包みオーブンで焼き、次にメイン料理のコテージパイ、これはボローニアソースを作ってマッシュポテトと耐熱皿に入れてオーブンで焼きました。最後にデザートのエートレネス、苺やラズベリーをふんだんに使い固くしたメレンゲと生クリームと一緒に混ぜるだけです。どれもイギリスの一家団欒の姿が目に見えようような心温まる料理でした。

材料の買い出しからアンディさんと一緒に欧米風のコストコへ行ったので、いかにも海外の料理を作るぞと言う感じでした。料理が趣味と言うアンディさん、時間内に手際よくこなしてお見事!!参加者の皆さんも和気藹々と楽しくお料理をしていました。

国際交流協会料理交流会に参加して

加藤 ちづ子

料理教室に参加するまでは、女性の方が教えて下さるのかと思っていましたが、講師はイギリス人の若い独身の方だったので、少し驚きました。日本語と英語を交えての講義で手際よく教えてくださり、楽しい料理教室でした。作ったお料理は日本でも良く見かけるパイ生地を使った料理の他にコテージパイそれにデザートの三品でした。流石イギリス料理、スパイスがふんだんに使われていました。男性も沢山参加されており、ひと昔と違って来たなと感じました。

阿見町国際交流協会主催の料理交流会に参加して

箱田 寿子

友人と2人で参加しました。イギリス人のダンディで親切な優しい講師アンディさんにイギリスの家庭料理を教えてくださいました。

スナックとしてソーセージ料理。引き肉にいろいろな種類の香辛料を混ぜそれをパイ生地で巻きオーブンで焼きました。

メインコースとしてコテージパイ。ミートソースにマッシュしたポテトをかぶせオーブンで焼き上げました。デザートにエートレネス。ワイングラスに生の苺、ベリー類を盛り付け生クリームとメレンゲを入れたしゃれたデザート。このメレンゲはアンディさんが自宅で4時間かけ準備してくれました。

私達は、短い時間でしたがイギリス文化に触れ、英語を話す聞く機会を頂き、ほんとに楽しい有意義な時間をすごす事が出来ました。





イギリス料理を教えるアンディ先生



イギリス料理で参加者全員満足

茨城大学とのジョイントプログラム

事務局長 五十嵐 裕夫

茨城大学全学教育機構講師 瀬尾 匡輝

茨城大学のAIMSプログラム（東南アジア学生交流プログラム）の一環として9月から翌1月まで東南アジア各国よりの留学生を対象として、地域住民の国際理解また留学生の支援など茨城大学とのジョイントプログラムを開始しました。

当協会の役割は、阿見町での居住ガイダンス、日本語講座の開催、留学生による自国文化の紹介への参加・質疑、また留学生ホームステイのためのホストファミリー募集・報告会参加・討論などでした。

留学生による自国文化の紹介では

- ①11/9（金）インドネシアの文化紹介。留学生19名、地元住民など全体で40名の参加。同国内の地域による食・衣・住の違いなどを説明。

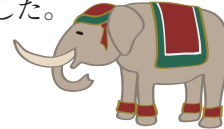


インドネシアの紹介

- ②12/15（土）ブルネイの文化紹介。留学生10名、地域住民など全体で42名の参加。写真や映像とともに、ブルネイの自然や観光地、王制などについて説明。

- ③1/5（土）タイの文化紹介。留学生18名、地元住民など全体で43名の参加。着用していたズボンのように見える民族衣裳が、実際は一枚の長い布で出来ていることや、タイ語は42のアルファベットがあることなど初歩からの紹介。

などを行いました。



タイの紹介 留学生チャンヤさん、ビラヤさん

一方、一つのキーイベントとなったホームステイプログラムで19名の留学生が参加し、近郊の17組の町民ホストファミリーに11/9～11/11の2泊3日の日程で対応頂きました。1/5のホスト及び学生合同の反省会では、1）学生側からは、予想していなかった嬉しいホームステイプランだった。2泊3日は短い。2）スマホを通訳機として活用した。3）必ずしもホスト全員が英語を話せないので残念などなど、またホスト側からは1）事前にホスト同士でどんな企画にするか話す機会があるとよい。2）最初の日は何家族かで合同でやってもよい。などで、主催側として心配したイスラム教の食事内容は、酒と豚肉に注意する程度で問題なかったなどの報告がされました。



ホストの上野さんと留学生mamさん、アバムさん

日本語教室（4教室）合同授業を終えて 笠間市文化体験バスツアーと学習者発表会&交流会

日本語教室代表 池田 敦子

11月4日（日）秋晴れの下、今回初めて日本語教室の課外授業として、ボランティア日本語講師と日本語を学んでいる外国人学習者とその家族を対象にした、日本文化体験バスツアーを行いました。参加者は29名（講師8名、学習者16名、学習者の子供5名）でした。バスの中で参加者の自己紹介を行い、ワクワクムードの中あっと言う間に笠間工芸の丘に着きました。工房で、7色の専用絵付け塗料でお皿やお茶碗に思い思いの絵を描き、絵付け体験をしました。当日は陶芸市が行われていたので、少し散策を楽しみました。笠間稲荷神社では、菊まつりで菊人形展が開催されていました。今年のテーマはNHKで放送中の「西郷どん」で、侍（武士）の格好をした人形の着物は、赤や黄色や白の菊で飾られていました。

12月16日（日）10時から日本語教室（4教室）学習者の日本語発表会を行いました。

30名の発表を予定していましたが、当日は26名（7カ国）の学習者が自己紹介やバスツアーの思い出や日本文化体験等を日本語で一生懸命スピーチして下さいました。発表会終了後はクリスマス会です。立食形式で参加者同士の交流を図り、ビンゴゲームを楽しみました。フィリピン人学習者の家庭料理や来賓者からのお菓子も加わり、テーブルは料理でいっぱいになりました。来賓の県国際交流協会交流推進課の中根様から「日本語学習者である外国人と教える側のボランティアの方々との間の和気あいあいとした雰囲気が垣間見られて、私も近くに住んでいたらボランティアとして参加したくなりました。」と後日うれしいコメントをいただきました。



笠間工芸の丘にて

日本語教室が合同で課外学習

小林 淳子

朝の集合時間には肌寒かったのですが、笠間に到着する頃にはちょうどいい気候になっていました。

私は茨城大の留学生の方々と同じ机だったのですが、微生物学専攻の学生さんが微生物のかわいいゆるキャラを描かれていて、その発想に驚きました。

絵付け会場の外で開かれていた「陶と暮らし」展をぶらぶらしました。同じ笠間焼でもブースごとに個性があって、見ていただけでも楽しかったです。

次に笠間稲荷の菊祭りを訪れました。菊人形がメインの菊祭りですが、そこにたどりつくまでにも咲き乱れる菊が美しく、また笠間稲荷の門前町も風情があって、参加者の皆さんはあっちで記念写真、こっちで記念写真となかなか足が進みません。菊人形を鑑賞したあとは自由散策でしたが、自由すぎるようにみえた皆さんがバスの出発時間には1人も遅れることなく集合したのには感心しました。

菊ばかりでなく、色づき始めた木々も美しく、また名物の栗のお菓子も美味しく、目にも舌にも楽しい1日でした。普段お会いすることのない生徒さんや講師の方々と交流できたのも有意義でした。



戸村先生(左)と小林(右)先生

あの時の思い出

大西 美樹(5年生)

「やっとなつた」この言葉が耳にはいつてきた。そこには、見知らぬ人やできたばかりの友達がいた。それは母が通っている日本語教室のバスツアーだからだ。

「ミーマル、行こうぜ。」ミーマルとは、友達のミルマルが私に付けた“あだ名”だ。しばらく歩いていると、絵付け体験のところまで来ていた。

「やっとなつて、ミーマル。」

すっかり言い慣れたようだ。そして、絵付け体験が始まった。絵付けできるのは、おわんかお皿だ。私はお皿にした。笠間にいった時の思い出は、まだまだあるが、ありすぎて書ききれない。でも、ひとつだけ短い言葉ですむものがある。それは、「ぜったいに忘れられないあの時の思い出」。



邱さん



大西さん

楽しい一日

邱 永珍

バスの中で、みんな自己紹介しました。みんなは違う国から来ました。フィリピンとインドネシアと中国などいました。言葉も違うし、環境も違うけど、みんなは一生懸命に勉強しています。本当に素晴らしいです。バスで私の隣に座った女性は、3年前にフィリピンから来ました。日本語でいろいろな話をしました。

午後1時、笠間稲荷神社に行ってきました。毎年この季節に皆さんが参拝に来て、七五三、結婚写真撮影、菊まつりなどがとても賑やかです。菊まつりの見どころは、神社境内に飾られる最大約5,000鉢にもなる色とりどりの菊の花、多種多様の菊の花です。気持ちがよかったです。



日本と私の国の文化の違い

火曜クラス 台湾 坂本 由実

日本に来て13年たちました。そんな私が一番驚いた、台湾と日本との親へのサポートの価値観の違いについてお話ししたいと思います。

台湾では 両親へのサポート、扶養が親孝行の基本的道徳の論理だ、と考えられています。台湾は、儒教の論理の影響で親子の絆が非常に強く、親子との同居や親を扶養することなどの価値意識を強く持っている人が多いです。



坂本さん

法律上でも親の扶養は子供の義務です。台湾は年金と介護の制度が足りないの、私と同世代の人々はとても大変だと思います。なぜなら、自分の子供の面倒もみるし、親の生活費も払わなければならないからです。

台湾の親から見て、子が親の面倒を見るのは当たり前だという考え方です。そして、子が親の面倒を見てあげ

る代わりに、親が孫の面倒を見るのは当然だ、という考え方も持っています。

台湾ではこのような家族の距離感が普通だと言えます。

一方、日本では同じアジアの国ですが、親へのサポートの仕方は全然違うと思います。日本人の親は「子供には子供の人生がある。子供に面倒を掛けずに老後を過ごしたい」と考えている人が多いように感じます。

その台湾と日本の違いに、私は一番驚きました。

楽しかった日本語教室バスツアー

木曜クラス タイ ノイ

学校の皆と笠間へ初めてあそびに行きました。お皿にお花の絵を描きました。日本料理はおいしかったです。それからきれいな菊人形を見ました。先生とお菓子を食べたりして、とても楽しかったです。

介護の仕事に出会えて

日曜クラス フィリピン 塚本 さら

日本人と結婚して30年になります。子どもが3人と孫が4人います。18歳で日本に来て、31年になりますので、フィリピンにいるより日本にすることが長くなりました。



塚本さん

今まで色々な仕事をしてきましたが、現在介護の仕事をして、6年になります。私は子供のころから看護師さんになりたかったので、今の仕事に出会えて大変うれしいです。人のお世話をすることに、生きがいを感じています。

私はフィリピンでも日本でも、これまで沢山の人から愛情をもらって、育てられて、生きてきました。だから感謝の気持ちで、お年寄りを大切にしたいと思います。

しかし、今私が後悔していることは、31年も日本にいて、満足に漢字の読み書きができないことです。

介護の仕事をするようになり、漢字に接することが多くなり、専門用語の漢字がいっぱい出てきて、漢字が読めなくて、意味がわからなくて大変困りました。

そこで阿見町日本語教室で、日本語と漢字の勉強をしています。漢字には一字一字に意味があり、そして一字一字読み方が違うことが分かりました。

これからも、もっともっと介護や日本語の勉強をして、皆様のお役に立てるよう頑張っていきたいと思っています。

